

3  
トコへ

聖徒たちと歩む聖書 ~20~  
ヤコブ その3

「人生との格闘のただ中で」

創世記29~31章 ヤコブの結婚・ハランの日々



## 【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. ヤコブの結婚

～二人の妻と息子たち～

II. ラバンとの確執

III. ヤコブの帰還

IV. まとめと適用

人生との格闘のただ中にも

共におられる主を覚えて





# 0. ふりかえり





神は、選びに応えたアブラハムを祝福され、  
土地の授与と 子孫の繁栄を告げ、  
その子孫から、全人類を救いに導く  
メシアが誕生することを約束された。

この「アブラハム契約」は、  
アブラハムから、イサク、  
そして、ヤコブへと継承されていく。





## 【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱



## 【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

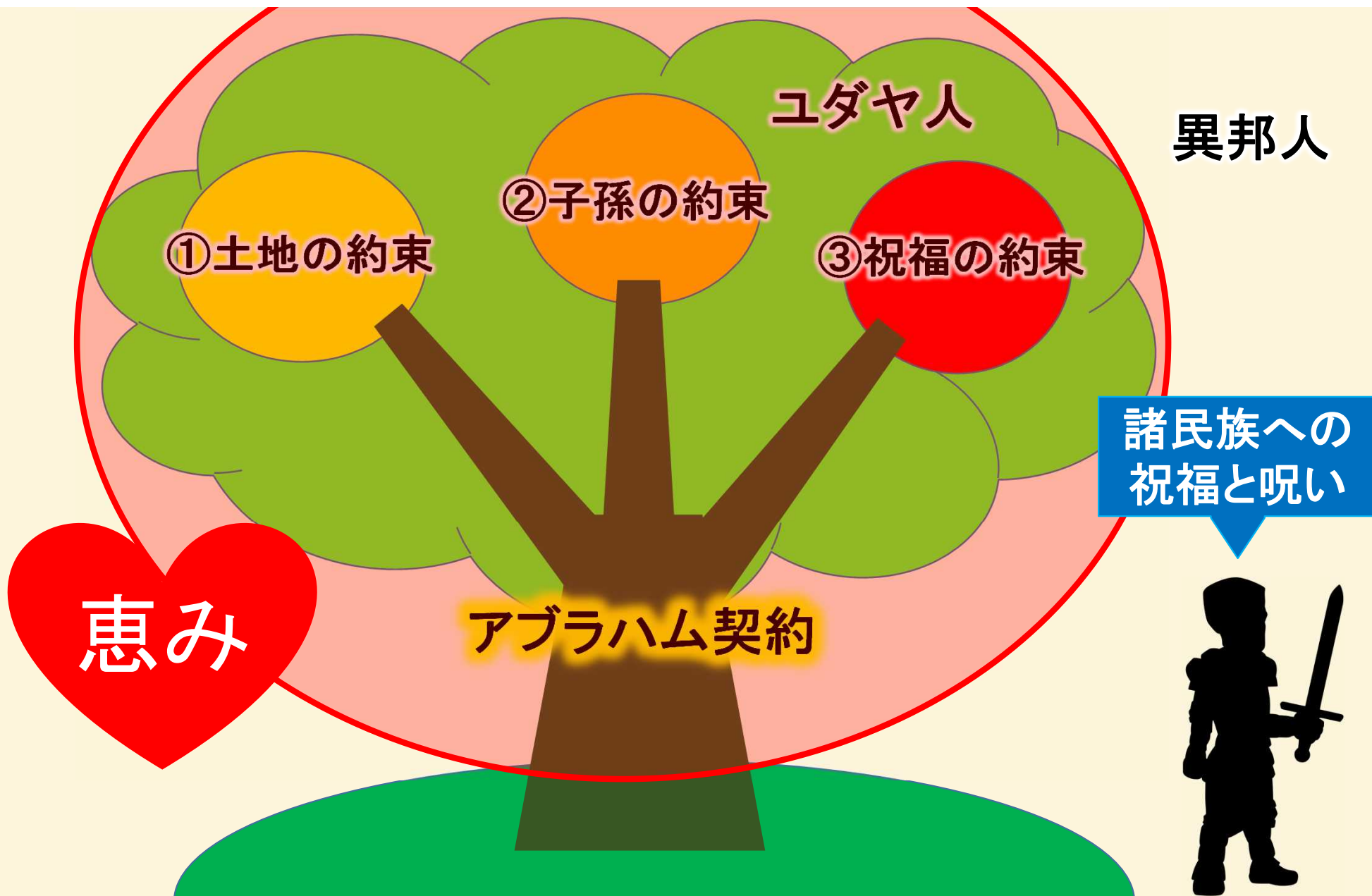
③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

例)エジプト、ゲラルでの出来事。

※しるし ...割礼

【アブラハム契約】

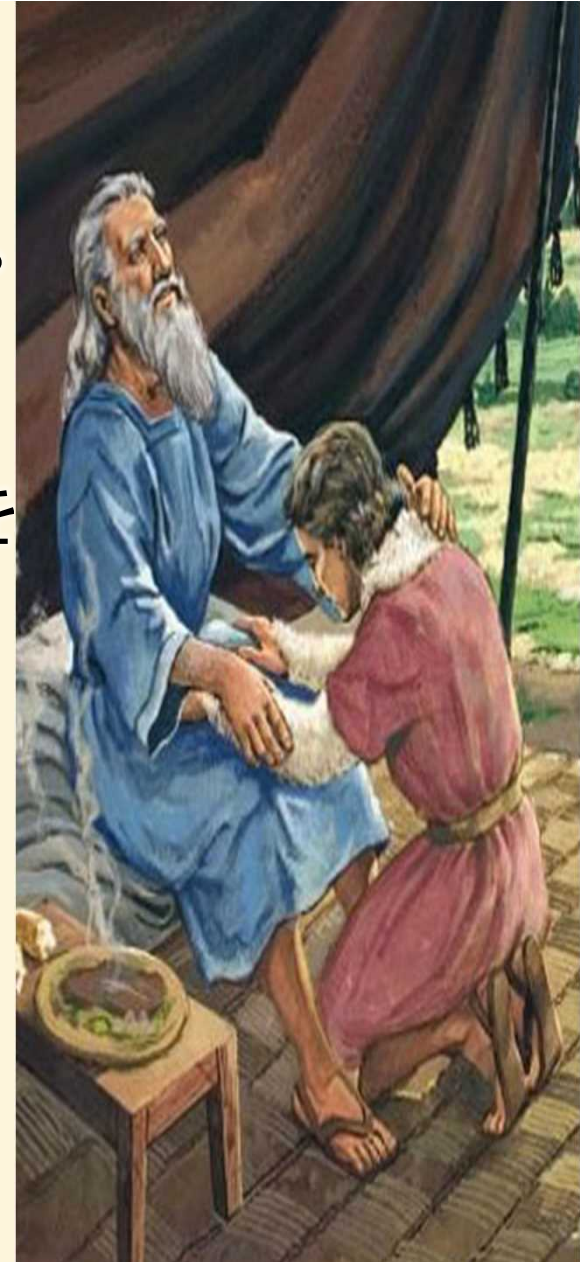


## 【トルドット・時代区分】

①2:4~4:26	「これは天と地が創造された時の <u>経緯</u> である」
②5:1~6:8	「これはアダムの <u>歴史の記録</u> である」
③6:9~	「これはノアの <u>歴史</u> である」
④10:1~	「これはノアの息子、セム、ハム、ヤペテの <u>歴史</u> である」
⑤11:10~	「これはセムの <u>歴史</u> である」
⑥11:27~	「これはテラの <u>歴史</u> である」 <b>アブラハム編</b>
⑦25:12~18	「これはイシュマエルの <u>歴史</u> である」
⑧25:19~26	「これはイサクの <u>歴史</u> である」 <b>ヤコブ編</b>

## 【三代目ヤコブの誕生・旅立ち・契約の継承】

- 父イサク60歳の時に誕生。双子の兄エサウの“かかとをつかんでいた”ことが、ヤコブの名前の由来。
- 神は、“兄が弟に仕える”と、予告されていた。
- 兄エサウになりすまし、父イサクを欺し、長子の祝福を得たヤコブだが、殺意を抱いた兄の元を逃れ、嫁探しを名目に、故郷を旅だった。
- 荒野のただ中で、天の梯子の夢を見、神から、アブラハム契約の継承がなされた。
- 長旅を守られ、ハランで将来の妻ラケルと出会った。
- 天の梯子が示すのは、メシアである主イエス。





## 【ヤコブへの神の約束】 創28:13～15

- そして仰せられた。「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。
- わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える。
- あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西、東、北、南へと広がり、
- 地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。
- 見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

神の御名の宣言

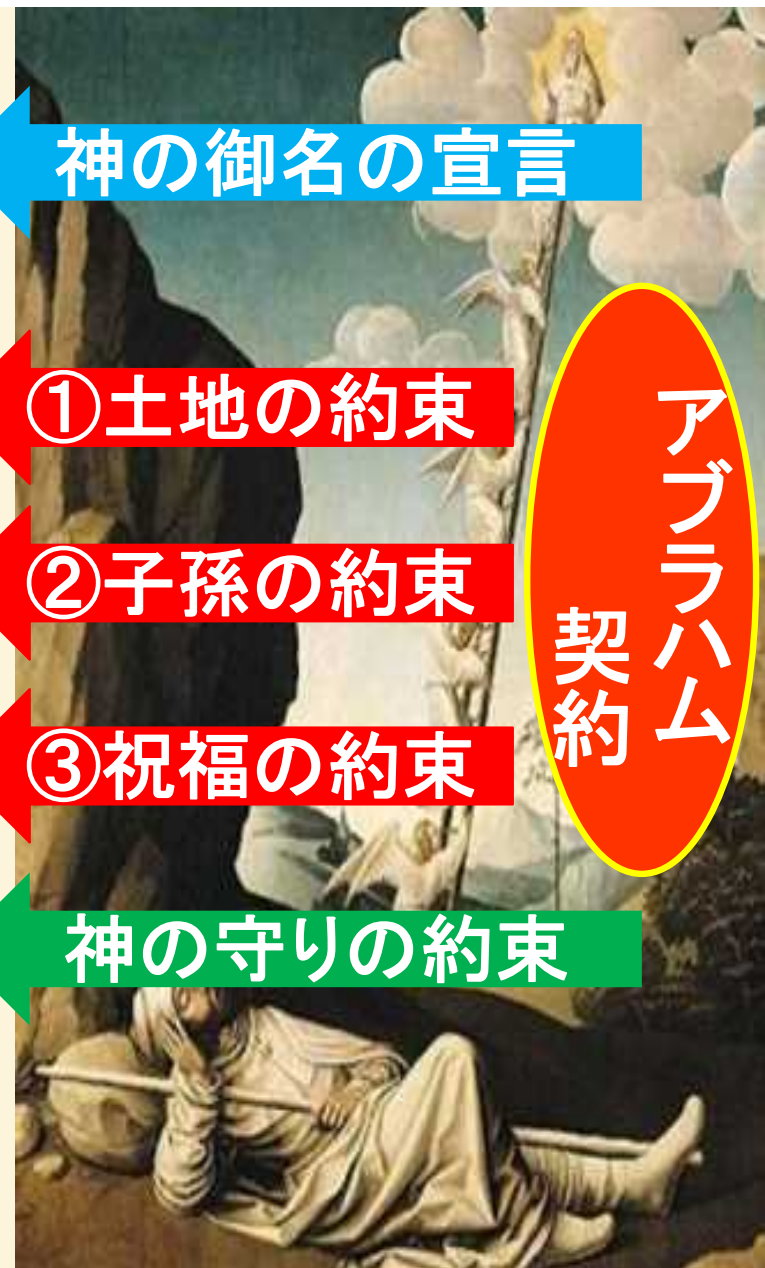
①土地の約束

②子孫の約束

③祝福の約束

神の守りの約束

アブラハム  
契約



# I. ヤコブの結婚

創29:16～30:24

～二人の妻と子どもたち～





## 【レアとラケル】 創 29:15

そのとき、ラバンはヤコブに言った。「あなたが私の親類だからといって、ただで私に仕えることもなかろう。どういう報酬がほしいか、言ってください。」

29:16 ラバンにはふたりの娘があった。姉の名はレア、妹の名はラケルであった。

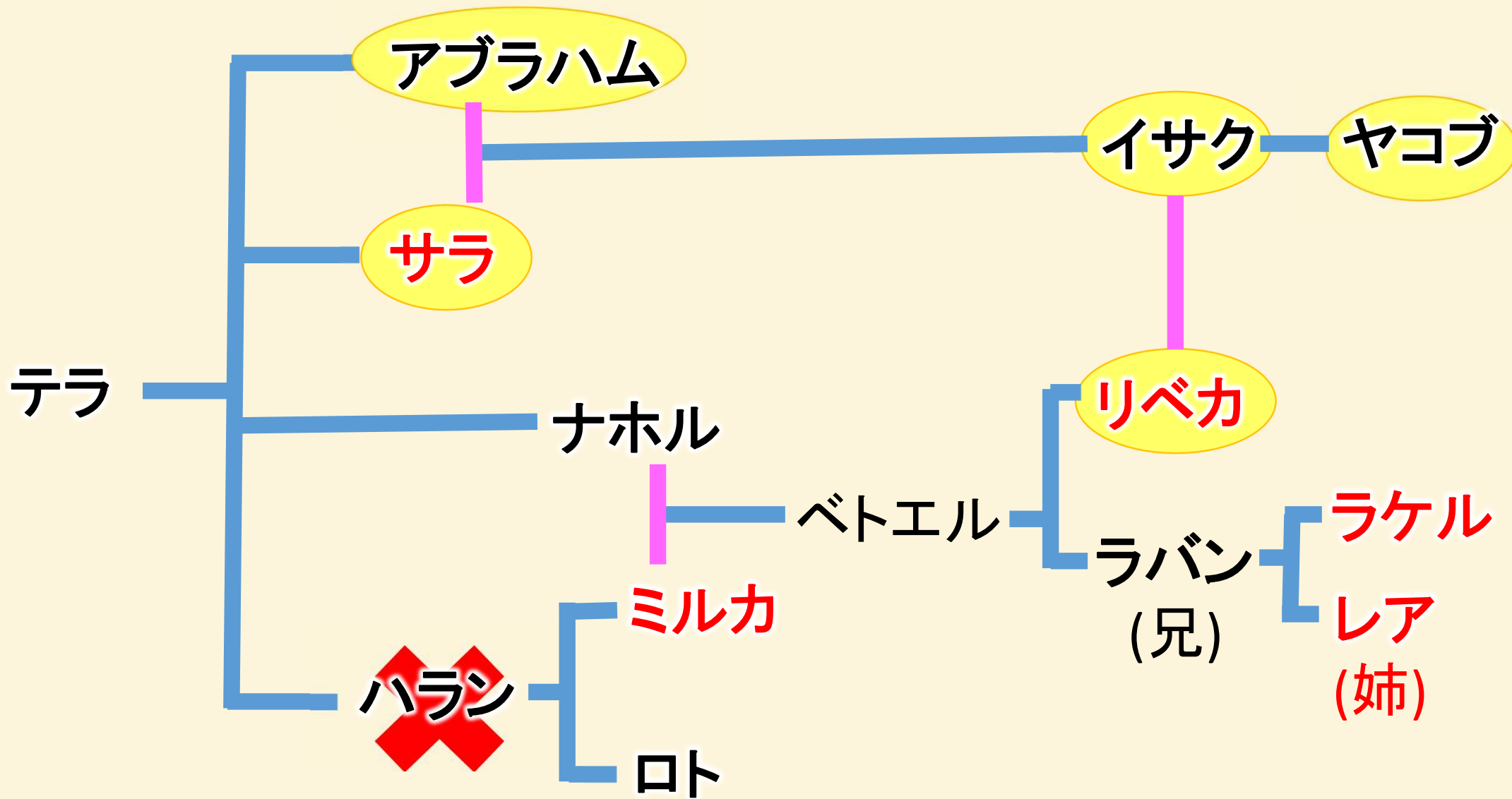
29:17 レアの目は弱々しかかったが、ラケルは姿も顔だちも美しかった。\*

\* 弱々しかかった ⇒ 湾曲的に美人ではないと。

■ レア ... “野生の牛”

■ ラケル ... “雌の子羊” 容姿端麗







## 【ヤコブの願い】 創 29:18～22

■ ヤコブは、ラケルとの結婚をラバンに願い、  
花嫁料として7年間の労働を請け負った。

29:20 ヤコブはラケルのために七年間仕えた。  
ヤコブは彼女を愛していたので、それもほん  
の数日のように思われた。

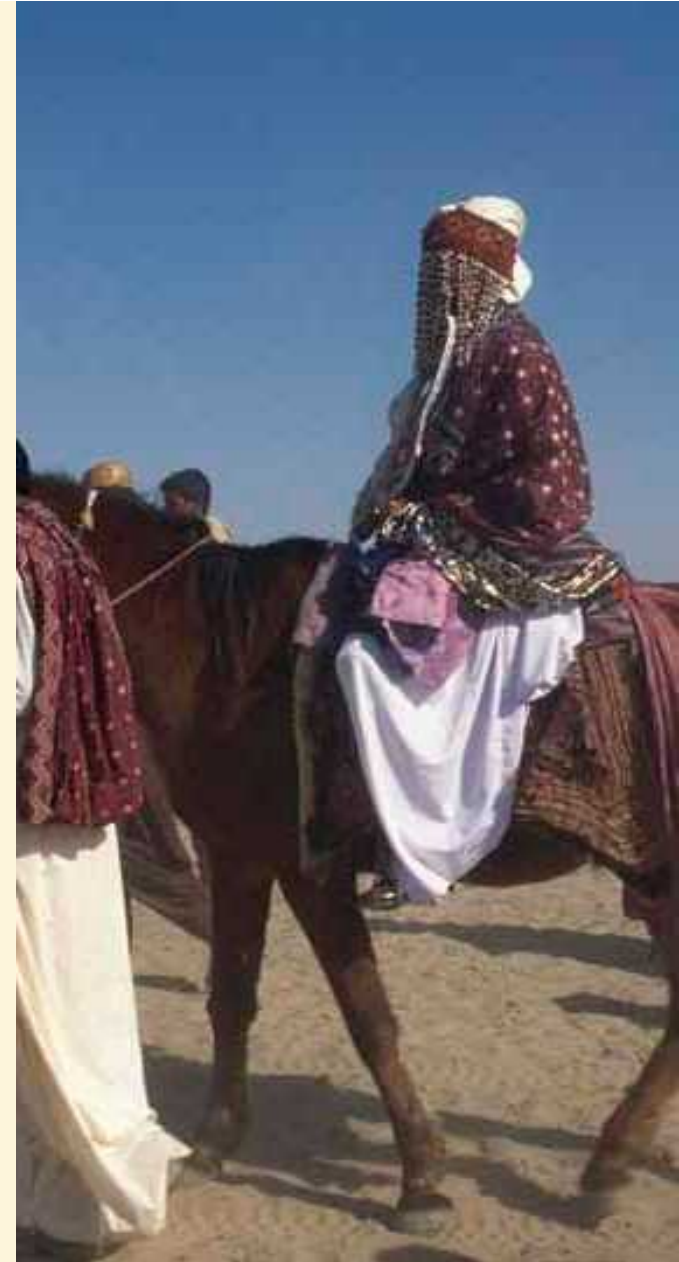
■ ヤコブは、懸命に働き通した。  
いよいよ、婚姻の 때가 やってきたのだが...



## 【ラバンのあざむき】 創 29:23～25

夕方になって、ラバンはその娘レアをとり、彼女をヤコブのところに行かせたので、ヤコブは彼女のところに入った。朝になって、見ると、それはレアであった。それで彼はラバンに言った。「何ということをお私になさったのですか。私があなたに仕えたのは、ラケルのためではなかったのですか。なぜ、私をだましたのですか。」

- 花嫁はヴェールを被り、暗い天幕で初夜を...。  
レアも、ラケルになりすまして黙っていた!!
- かつて、父イサクを欺したヤコブは、  
叔父ラバンに欺された。





## 【ラケルとの結婚も...】 創 29:26～28

ラバンは答えた。「われわれのところでは、長女より先に下の娘をとつがせるようなことはしないのです。それで、この婚礼の週を過ごしなさい。そうすれば、あの娘もあなたにあげましょう。その代わり、あなたはもう七年間、私に仕えなければなりません。」ヤコブはそのようにした。すなわち、その婚礼の週を過ごした。それでラバンはその娘ラケルを彼に妻として与えた。

- ヤコブは、一週間後にラケルと結婚。  
この後さらに7年間。合計14年を無償で働いた。



## 【レアとラケルの争い】

- ヤコブは、ラケルを愛し、優先した。
  - 神は、レアを憐れみ、多くの子を与えた。
  
  - 2人は、激しく争いながら、子を得ていった。
    - ①レアは、4人の子を出産。
    - ②ラケルは、側女ビルハにより2人を得た。
    - ③レアは、側女ジルパにより、2人を得た。
    - ④レアが、2人を出産。
    - ⑤ラケルは、初めて、1人を出産。
- ⇒ヤコブには、合計11人の子どもが!!





★レアの子★

- ①ルベン ...『息子を見よ』
- ②シメオン ...『聞く』
- ③レビ ...『結ぶ・近づく』
- ④ユダ ...『ほめたたえよ』

祭司

メシア

★ジルパによるレアの子★

- ⑦ガド ...『幸運』
- ⑧アシュル ...『幸せ』

★レアの子★

- ⑨イッサカル ...『報酬』
- ⑩ゼブルン ...『ともに住む』

★ビルハによるラケルの子★

- ⑤ダン ...『裁く』
- ⑥ナフタリ ...『争う』

★ラケルの子★

- ⑪ヨセフ ...『加える』 (取り去る)

長子権

⑫ベニヤミン

...『私の右手の子』  
(苦しみの子)

イスラエルの  
12人の息子たち



## Ⅱ. ラバンとの確執

創世記30:25~43



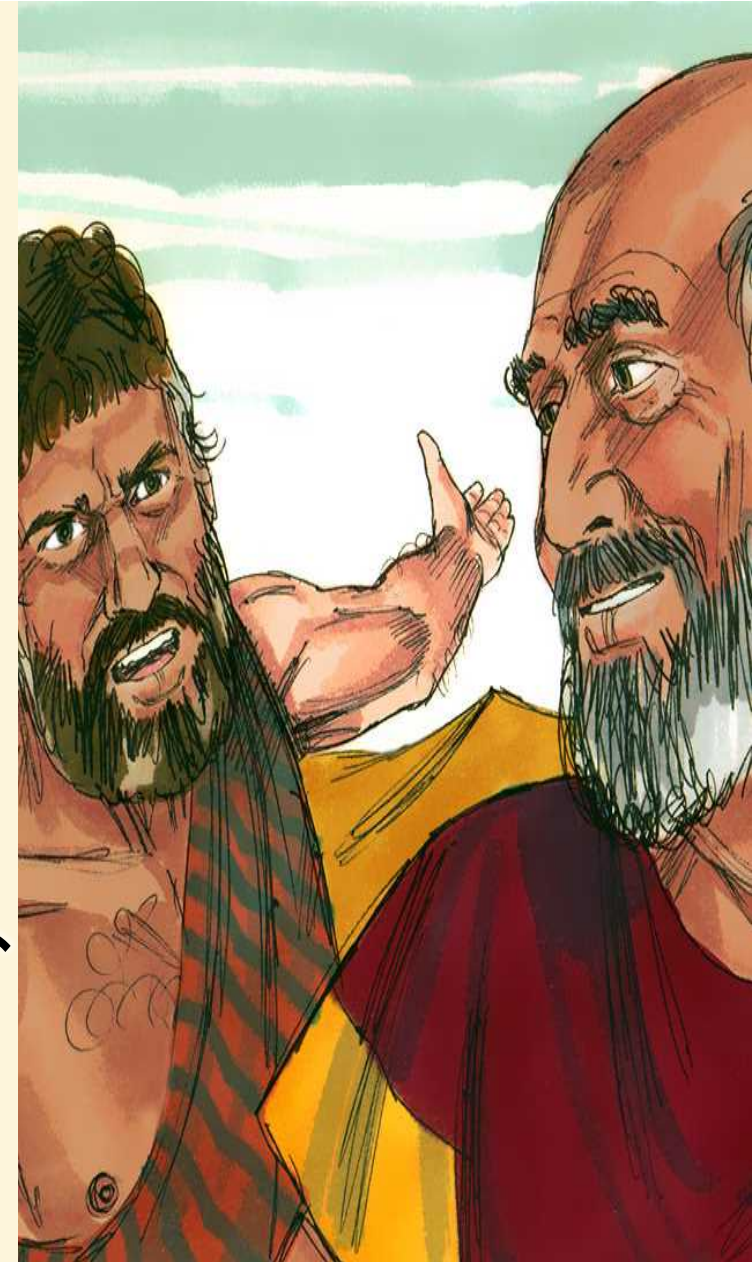


## 【ヤコブの要求】 創 30:25～28

- 14年間の無償労働を終えて後、ヤコブは、ラバンに帰郷の望みを告げ、報酬を求めた。

ラバンは彼に言った。「もしあなたが私の願いをかなえてくれるのなら……。私はあなたのおかげで、【主】が私を祝福してくださったことを、まじないで知っている。」

- アブラハム契約の祝福の呪いの付帯条項が、ラバンに、祝福と富をもたらしていた。
- 金の鶏を手放したくないのがラバンの本心。



## 【ヤコブの申し出】 創30:31～32

もし次のことを私にしてくださるなら、私は再びあなたの羊の群れを飼って、守りましょう。

私はきょう、あなたの群れをみな見回しましょう。その中から、ぶち毛とまだら毛\*のもの全部、羊の中では黒毛のもの全部、やぎの中ではまだら毛とぶち毛のものを、取り出してください。そしてそれらを私の報酬としてください。」

\* ぶち毛 ...黒地に白点。

\* まだら毛 ...白地に黒点。

■ どちらも、数は少なく、珍しい。

■ 強欲なラバンの性格をよく知るヤコブは、極めて控えめな要求をした!!





## 【ラバンの仕打ち】 創30:34～36

するとラバンは言った。「そうか。あなたの言うとおりになればいいな。」

ラバンはその日、しま毛とまだら毛のある雄やぎと、ぶち毛とまだら毛の雌やぎ、いずれも身に白いところのあるもの、それに、羊の真っ黒のものを取り出して、自分の息子たちの手に渡した。そして、自分とヤコブとの間に三日の道のりの距離をおいた。ヤコブはラバンの残りの群れを飼っていた。

- ヤコブに預けていた群れの中から、ぶち毛、まだら毛、黒毛すべてを取り、ラバンは、可能性を元から絶ってしまった!!





## 【ヤコブのあがき】 創 30:37～38

ヤコブは、ポプラや、アーモンドや、すずかけの木の枝を取り、その白い筋の皮をはいで、その若枝の白いところをむき出しにし、その皮をはいだ枝を、群れが水を飲みに来る水ため、すなわち水ぶねの中に、群れに差し向かいに置いた。

- 妊娠中に、目から受けた刺激が、胎児に影響するという迷信があった。
- あがかずにはいられないのがヤコブ。  
“かかとをつかむ者” ヤコブの本領発揮!!
- しかし、結果としては、不思議ないことに、ヤコブの家畜は、どんどん増え、ヤコブは、多くの財産を手にした。





# Ⅲ. ヤコブの帰還

創世記31:1~54





## 【心変わりしたラバン】 創 31:1～3

さてヤコブはラバンの息子たちが、「ヤコブはわれわれの父の物をみな取った。父の物でこのすべての富をものにしたのだ」と言っているのを聞いた。ヤコブもまた、彼に対するラバンの態度が、以前のようにではないのに気づいた。【主】はヤコブに仰せられた。「あなたが生まれた、あなたの先祖の国に帰りなさい。わたしはあなたとともにいる。」

- ヤコブを盗人呼ばわりし、敵意まで。ラバンと、息子たちは、明らかに一線を越えてしまった。
- 20年ぶりに、主がヤコブに語りかけられた。  
⇒ ついに、故郷へ帰還する決意をするヤコブ。





## 【ヤコブの証】 創31:3～13

■ ヤコブは、レアとラケルに帰還の決意を告げ、家畜が増えたのも、神の御業だったと証した。

31:12～12 すると御使いは言われた。『目を上げて見よ。群れにかかっている雄やぎはみな、しま毛のもの、ぶち毛のもの、まだら毛のものである。ラバンがあなたにしてきたことはみな、わたしが見た。わたしはベテルの神。あなたはそこで、石の柱に油をそそぎ、わたしに誓願を立てたのだ。さあ、立って、この土地を出て、あなたの生まれた国に帰りなさい。』

■ ハランでの苦難の20年の間も、ヤコブと共にいて、守り導かれた主が、帰還を命じられた!!

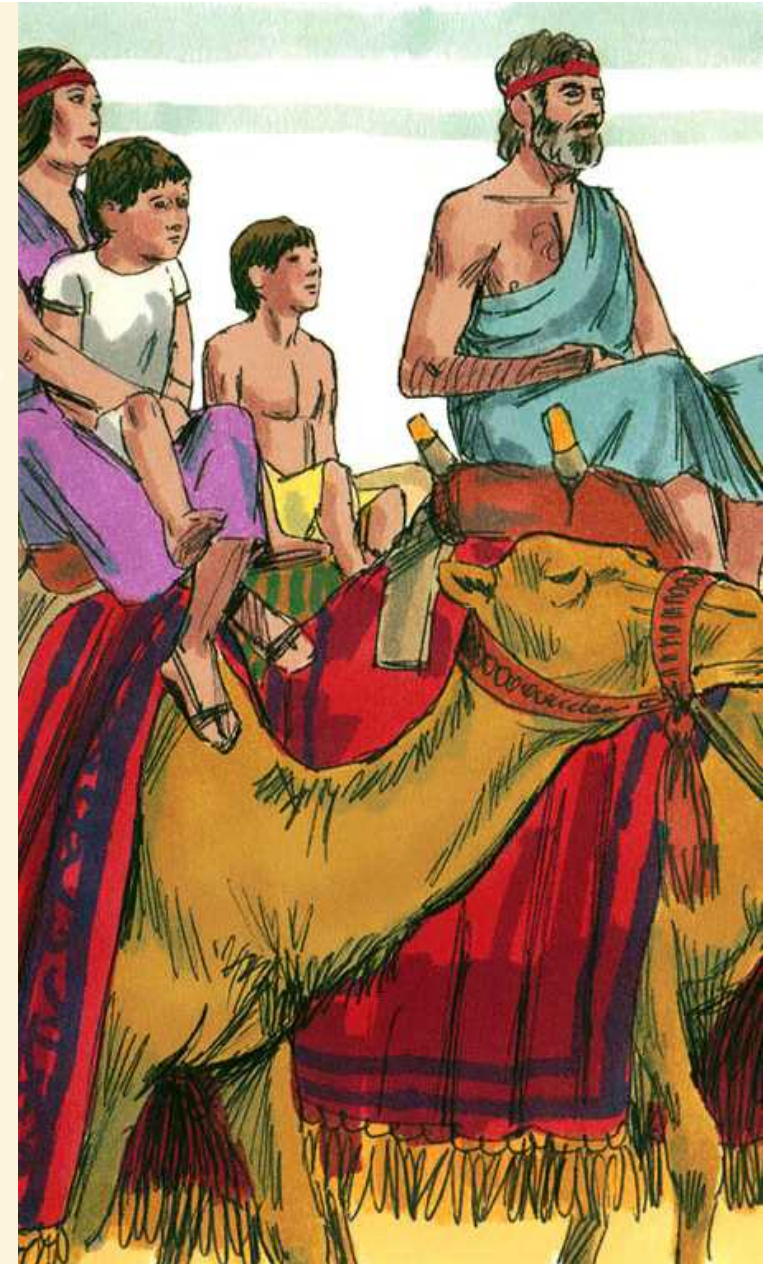


## 【ヤコブのハラン脱出】 創31:14～21

■ ラケルとレアもヤコブに即座に同意した。

31:17～19 そこでヤコブは立って、彼の子たち、妻たちをらくだに乗せ、また、すべての家畜と、彼が得たすべての財産、彼がパダン・アラムで自分自身のものとした家畜を追って、カナンの地にいる父イサクのところへ出かけた。そのとき、ラバンは自分の羊の毛を刈るために出ていたので、ラケルは父の所有のテラフィムを盗み出した。\*

\* テラフィム ...財産権を示す偶像神の銅像。







【ハラシ脱出】 創31:21

彼は自分の持ち物全部を持って逃げた。彼は旅立って、ユーフラテス川を渡り、ギルアデの山地へ向かった。

## 【ラバンの追跡】 創13:22～

■ ヤコブと3日の距離を開けていたために、報告が遅れたラバンが、必死に追走して、ようやく追いついたのは、13日目だった。

31:24 しかし神は夜、夢にアラム人ラバンに現れて言われた。「あなたはヤコブと、事の善悪を論じないように気をつけよ。」

■ 神ご自身がラバンに語りかけ、ヤコブに危害を加えないよう釘を刺した。

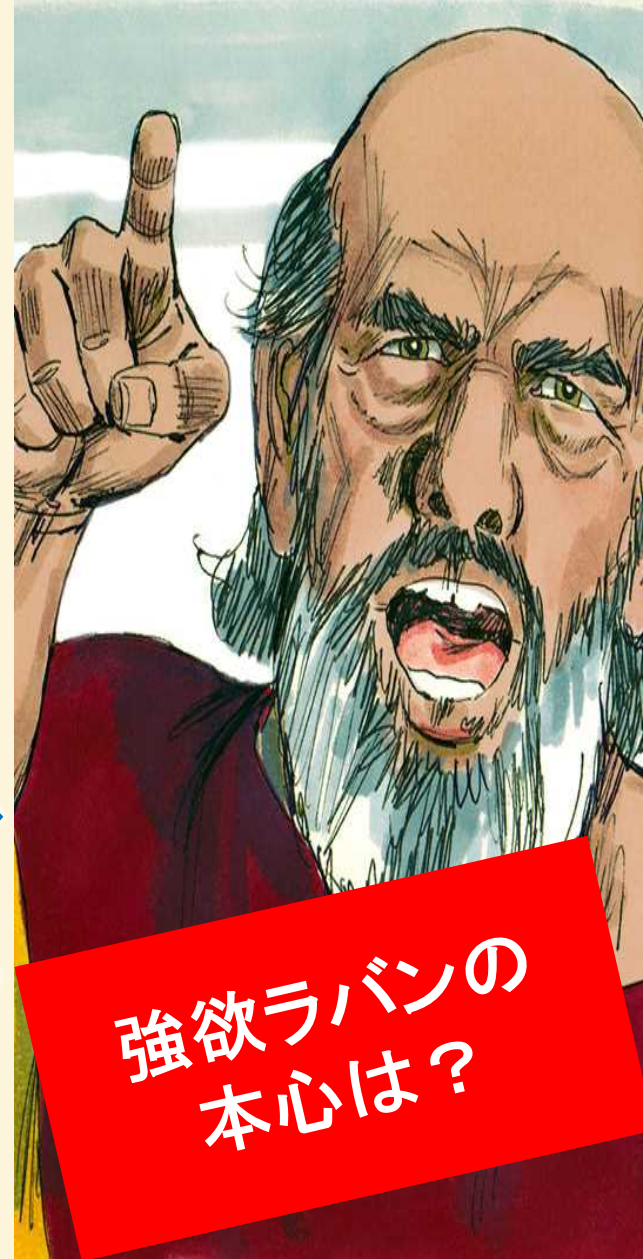




## 【ヤコブを責め立てるラバン】 創31:26～30

■ラバンは、ヤコブが非礼だと責めた。

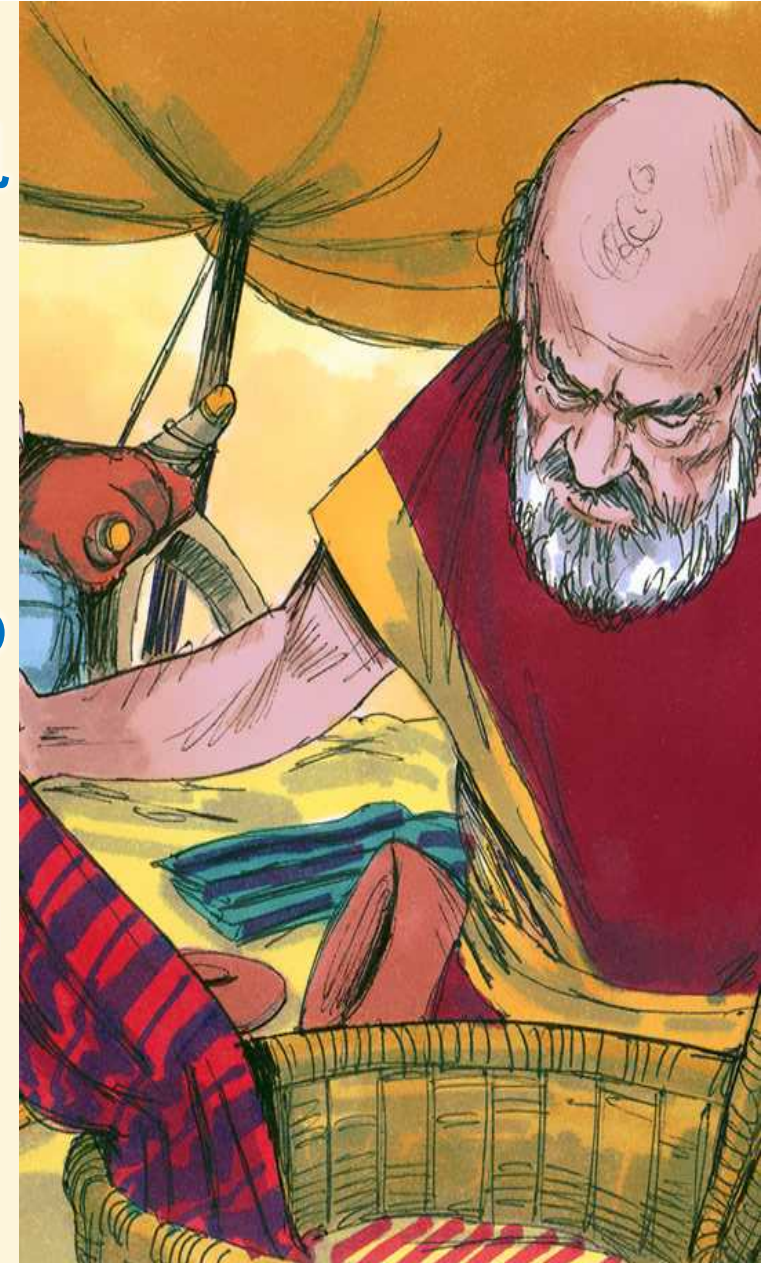
「何ということをしたのか。私にないしよで私の娘たちを剣で捕らえたとりこのように引いて行くとは。なぜ、あなたは逃げ隠れて私のところをこっそり抜け出し、私に知らせなかったのか。私はタンバリンや立琴で喜び歌って、あなたを送り出したろうに。しかもあなたは、私の子どもたちや娘たちに口づけもさせなかった。あなたは全く愚かなことをしたものだ。私はあなたがたに害を加える力を持っているが、昨夜、あなたがたの父の神が私に告げて、『あなたはヤコブと、事の善悪を論じないように気をつけよ』と言われた。それはそうと、あなたは、あなたの父の家がほんとうに恋しくなって、どうしても帰って行きたくなったのであるが、なぜ、私の神々を盗んだのか。」



強欲ラバンの  
本心は？

## 【テラフィムをめぐって】 創31:32～33

「あなたが、あなたの神々をだれかのところで見つけたなら、その者を生かしてはおきません。私たちの一族の前で、私のところに、あなたのものがあつたら、調べて、それを持って行ってください。」ヤコブはラケルがそれらを盗んだのを知らなかったのである。そこでラバンはヤコブの天幕と、レアの天幕と、さらにふたりのはしための天幕にも入って見たが、見つからなかったので、レアの天幕を出てラケルの天幕に入った。」



- 財産の相続権を示すテラフィムだけは、持って行かれまいと、必死に探すラバン。



## 【ラバンを欺いたラケル】 創 31:34～35

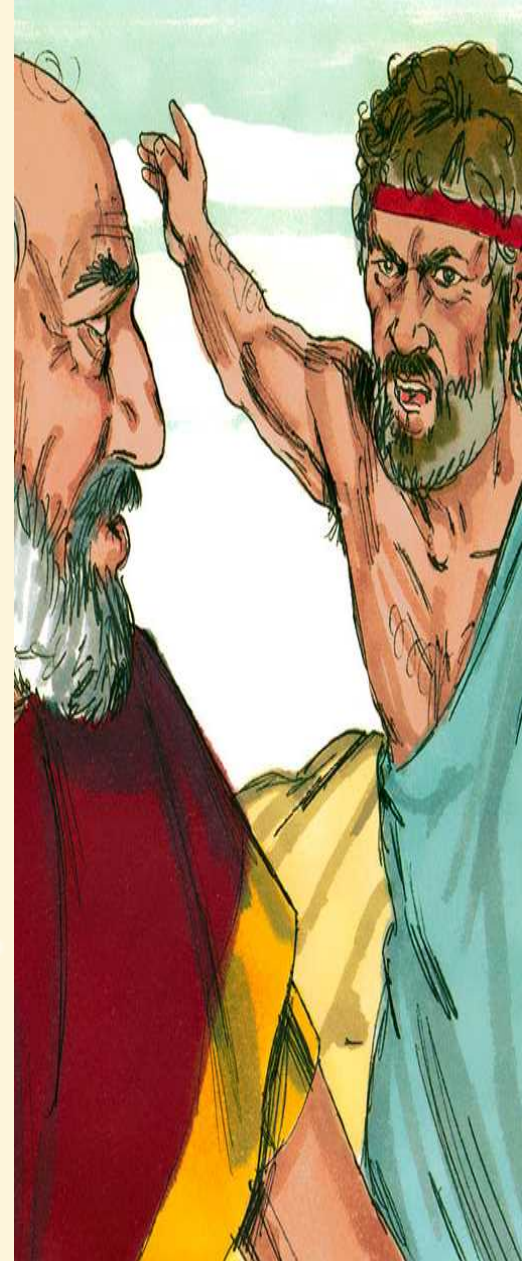
ところが、ラケルはすでにテラフィムを取って、らくだの鞍の下に入れ、その上にすわっていたので、ラバンが天幕を隅々まで捜し回っても見つからなかった。ラケルは父に言った。「父上。私はあなたの前に立ち上がることができませんので、どうかおこらないでください。私には女の常のことがあるのです。」彼は捜したが、テラフィムは見つからなかった。

- 何度も甥ヤコブを欺き続けたラバンは、実の娘ラケルに欺かれた。



## 【吹き出すヤコブの感情】 創31:36～42

「私にどんなそむきの罪があって、私にどんな罪があって、あなたは私を追いつめるのですか。あなたは私の物を一つ残らず、さわってみて、何か一つでも、あなたの家の物を見つけましたか。もしあったら、それを私の一族と、あなたの一族の前に置いて、彼らに私たちふたりの間をさばかせましょう。私はこの二十年間、あなたの家で過ごしました。十四年間はあなたのふたりの娘たちのために、六年間はあなたの群れのために、あなたに仕えてきました。それなのに、あなたは幾度も私の報酬を変えたのです。もし、私の父の神、アブラハムの神、イサクの恐れる方が、私についておられなかったなら、あなたはきっと何も持たせずに私を去らせたことでしょう。神は私の悩みとこの手の苦労とを顧みられて、昨夜さばきをなされたのです。」





## 【ヤコブとラバンの契約】 創31:43～

■2人は、相互不可侵の契約を結び、  
それぞれの神にかけて誓った。

31:51～53 ラバンはまたヤコブに言った。「ご覧、  
この石塚を。そしてご覧、私があなたと私との間に  
立てたこの石の柱を。

この石塚が証拠であり、この石の柱が証拠である。  
敵意をもって、この石塚を越えてあなたのところ  
に行くことはない。あなたもまた、この石塚やこ  
の石の柱を越えて私のところに来てはならない。

どうかアブラハムの神、ナホルの神—彼らの父  
祖の神—が、われわれの間をさばかれますよう  
に。」ヤコブも父イサクの恐れる方にかけて誓った。



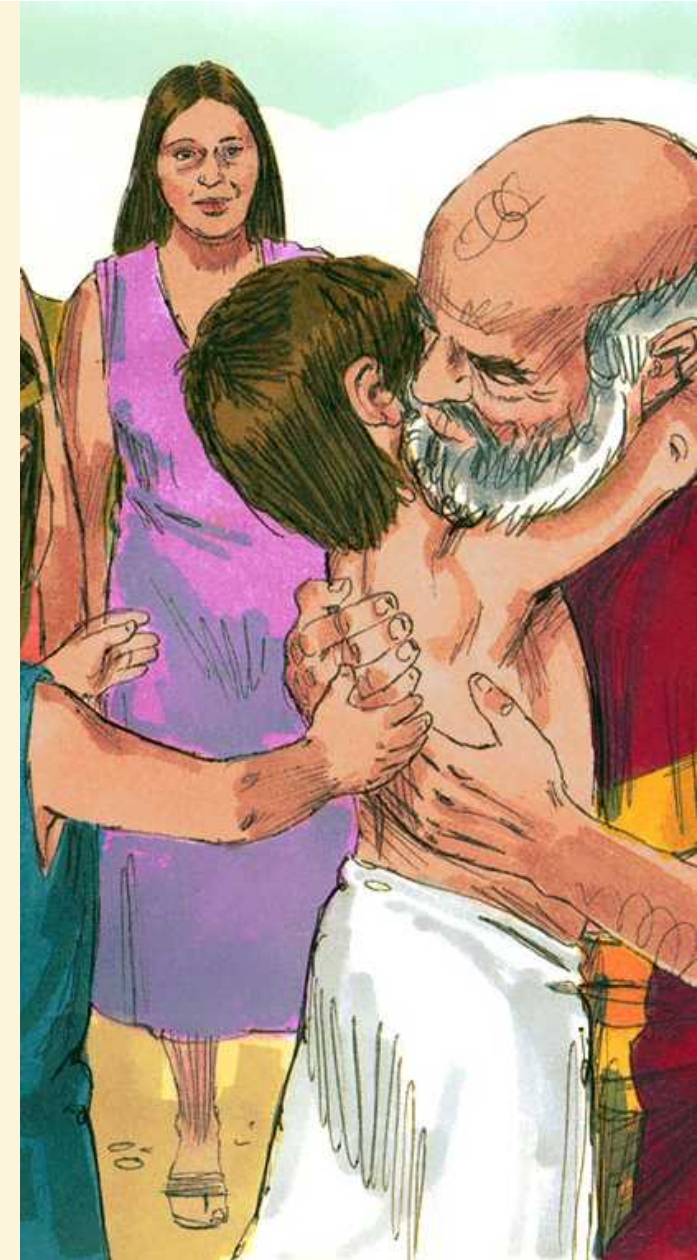
## 【契約の食事】 創31:54～55

そしてヤコブは山でいけにえをささげ、一族を招いて食事を共にした。\*食事をしてから彼らは山で一夜を明かした。

翌朝早く、ラバンは子どもたちと娘たちに口づけして、彼らを祝福した。それからラバンは去って、自分の家へ帰った。

\*この契約は、ヤコブの子孫にも有効ということ。

■これ以降、ラバンも、ハランの地にいる一族も、聖書には、二度と登場しない。





A herd of cows is silhouetted against a bright sunset sky. The sun is low on the horizon, creating a warm, golden glow. The cows are scattered across a dark, grassy field. The sky is filled with soft, wispy clouds, and the overall atmosphere is peaceful and contemplative.

## Ⅲ. まとめと適用

人生の格闘のただ中にも  
共におられる主を覚えて

## 【ヤコブの、ハランでの波乱の日々を振り返る】

- 7年間の無償労働の末に、ようやく結ばれたラケルは、レアだった!!
- 2人の妻を得て、14年間の無償労働をすることに!!
- 2人の妻が、激しく争うあう中で、11人の息子が生まれた。
  
- 再びラバンに欺かれ、財産が増えないように仕組まれた。
- 迷信にまでもかじりつき、必死に働き続けた6年間。
- 神の御業により、多くの財産を得た一方、ラバンの敵意もピークに!!
  
- 決死の脱出劇。約束の土地を目の前にラバンに追いつかれるも、神の守りによって、害を逃れた。
- 20年ぶりに、ようやく帰還した地。しかし、さらなる難題が...。殺意を抱いていた兄エサウとの再会の時が待っている!!



## 【ヤコブの波乱の生涯から学ぶこと】

- 人生には、自分の蒔いた種の刈り取りがある。
- 主を信じて歩む者には、さらなる試練がある。

■ イエスの弟子たちも、試練の中を歩まされていった。

## 【イエスのペテロへの試練の予告】 ヨハネ 21:18

「まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。

しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」

## 【ヨハネは、どうなるのかと聞いたペテロへの主の答え】 ヨハネ21:22

「あなたに何の関わりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」

## 【わたしの、あなたの、試練の意味を考える】

■「なぜ、わたしが、こんな目にあわなければならないのか？」

誰もが、試練の中で、疑問を抱く。

■自ら招いた試練もあれば、主から与えられた試練もある。

■その答えは、自分自身で見いだすもの。

信仰者に、試練のただ中で与えられる最大の気づきとは、  
すべてのことに、意味があると知ること。

■主は、主を愛するすべての者に、すべてのことを益としてくださる。

十字架の死によって、罪人を神の家族とする道を拓かれた、

主イエス・キリストが、私たちを招き、希望の道へ導いてくださる。

私たちの帰るべき真の故郷への旅路を、主が保証されている。



ローマ 8:28

「神は、神を愛する者たち、  
すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、  
万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。」





「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、
- ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
- ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

どんな試練(しれん)のただなかにあっても、主(しゅ)が共(とも)におられ、すべてのことを益(えき)としてくださいます。

約束(やくそく)された、真(しん)の故郷(こきょう)へ向(む)かって、ただ、主(しゅ)への信頼(しんらい)をもって、今(いま)この時(とき)を歩(あゆ)ませてください。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈(いの)ります。

アーメン」